

マイ・ドリーム： バラク・オバマ自伝

バラク・オバマ著 白倉三紀子、木内裕也訳
ダイヤモンド社 2007

リビング・ヒストリー： ヒラリー・ロダム・クリントン自伝

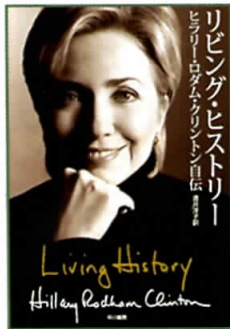
ヒラリー・ロダム・クリントン著 酒井洋子訳
早川書房 2003

法学部准教授 藤田 由紀子

2009年1月20日、バラク・オバマ氏が第44代アメリカ合衆国大統領に就任した。歴代2位という高い支持率で就任したオバマ大統領は、初のアフリカ系大統領でもある。また、オバマ新政権の国務長官に就いたのは、ファースト・レディを経て上院議員となり、初の女性大統領を目指して、オバマ氏と民主党の大統領候補者指名を最後まで争ったヒラリー・クリントンである。

このバイタリティ溢れる両氏の自伝をお薦めしたい。彼らがアメリカン・ドリームを体現することができたのは何故なのか、そのパワーの源泉を探るのも面白いだろう。また2人の生き様を通じて米国社会の一面を垣間見ることできるだろう。もちろん読み方は自由であるが、彼らのようなアメリカン・ドリーマーを生み出すことができる米国社会ないし米国民主義の懐の深さと、夢を実現する手段としての教育の重要性に関しては、是非着目していただきたい。

ただ、この2冊はあくまでも「自伝」であるということ、特にクリントン氏のものは大統領選への立候補を見据えて執筆したものであるということに留意する必要がある。後年、出版されるであろう他者による彼らの評伝と読み比べてみるのも興味深いであろう。



会社は これから どうなるのか

岩井克人



① 会社はこれからどうなるのか

岩井克人著 平凡社 2003

② 天才の精神病理： 科学的創造の秘密

飯田真、中井久夫著 岩波書店 2001
(岩波現代文庫)

経営学部教授 矢澤 清明

① 会社の利潤の源泉は何か。それは、原理的に言えば「差異性」に他ならない。ところがポスト産業資本主義の時代に入って、「差異性」の内容は大きく変化した。「差異性」を生み出す力が、従来のおカネからイノベーションを創出する情報や知識の活用能力にシフトしたのである。この状況は、会社のあり方や働き方も変えていくことになる。今後、どのような組織デザインが有望なのか、会社とどう付き合えばよいのか。会社に関心を持つ人すべてに、本書の一読を勧めたい。

② 二冊目は、六人の天才(ヴィトゲンシュタイン他)の生涯を病蹟学の立場から描いた精神医学的伝記である。学生の頃本書を読んで、「問題を解決するのではなく問題自体を解消させる」というヴィトゲンシュタインの方法論に目から鱗の驚きを味わった。苦渋な探究を続けた本人にとって、方法論その物が一種の救いとなったはずである。知的創造活動には、内的危機や個人的問題を知的等価物に置換する機能があると言う。つまり、知的創造を通じて「世界が見える」ようになることは、ある種の精神的救いやカタルシスをもたらし、更にそれ自体が希少であることにより、人をその挑戦へといざなうのである。先人の歩みは、我々にとっての参照モデルである。時には、天才達の実像を知るのも悪くはない。貴方は、彼等の軌跡に何を感ずるだろうか。